



発行月：令和8(2026)年6月
発行者：小田原文化レポーター

いろいろ小田原とは？

小田原には古くからたくさんの文化が花開き、現在も活気ある活動が続いています。そんな小田原のアレコレを見つめたレポートをもっと多くの方に！という願いを込めて発刊しています。

カラー版はこちらから

小田原市 文化レポーターホームページ内で過去の「いろいろ小田原」がカラーで見られます



Instagramはこちらから

文レポ（文化レポーター）が気になっている情報を載せています

あたらしい文化 むかしの文化 つくる文化 まもる文化 みつける文化

これまで「いろいろ小田原」では、いろいろ三の丸ホール、いろいろ花ざかり、いろいろロケ地、いろいろ推しスポ、いろいろキャラ、と、いろいろな小田原の文化を紹介してきました。
9号では、文化レポーターがこの1年に書いた推しレポートを、それぞれ紹介します。

今号の編集長…ゆきぐま

「いろいろ小田原」編集会議 時にはグルメ談義

▼現役記者の予史重さん、エッセイストの広目子さん、ヴィオラのじんちゃん、子育て奮闘中のRIEさん、話芸大好ききの備堂能満さん、塾講師のゆきぐま、それに文化政策課職員により、毎月第3水曜日の午後6時半から、「いろいろ小田原」編集会議が始まる。▼それぞれ多才ならず多用なので「すみませ〜ん」と遅れてくる。編集会議は、次の号のテーマの出し合いから。メンバーそれぞれの活動分野はもちろん、つい逸れていくのはグルメ談義。ときにはうんちくのかき合いで新鮮な見方や知見の広がりを生む。編集過程で文化の深さを共有する。▼あなたも編集会議に参加して文化レポートを書いてみませんか。



ある日の編集会議

西海子の帰路

集めてきた素材で西海子のまちづくり

昨年11月、まちづくりを考えるための新しい組織「アーバンデザインセンター小田原(UDCOD)」の活動報告会に行ってきた。西海子小路の旧保健福祉事務所跡地で、地元の子どもたちが集めてきた素材(小石やシーグラスなど)をモルタルに配置した「まちづくり」①。作品は、この跡地に残して子どもたちの「つくったまち」となる②。夕方からは2本の松の木に張られたスクリーンで「西海子の帰路」の動画上映。

今年3月、再び報告会があった。跡地では十字地区の人たちによる「シテミテひろば」の実験の告知が行われていた。また、ハルネ小田原のうめまる広場で活動報告シンポジウム「みんなで探そう小田原のまちの価値」も開催された。レポートには活動の様子も書こうと思う。 /ゆきぐま

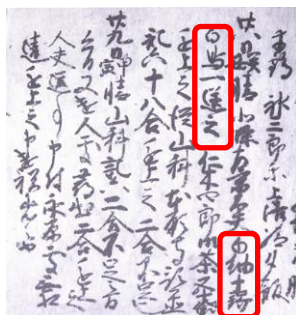


詳細はレポートへ



武家として公家への敬意

北条氏綱が近衛家へ白鳥を贈ったワケ



北条五代の礎を作った二代目北条氏綱は、京の近衛家から後妻を迎えるにあたり、近衛家へ「白紬十端白鳥一」を贈ったとの記録が『後法成寺関白記(近衛尚通の日記)』にある。当時、鶴や白鳥は鷹狩りの最高級の獲物であり、鶴は天皇へ献上する鳥であった。白鳥は鶴に次ぐ高貴な食べ物であり、氏綱は婚礼の御礼として白鳥を近衛家へ贈った。京の名門である伊勢氏出身の氏綱は、公家の筆頭である近衛家へ鷹狩りの獲物である白鳥を贈って、武士として公家への敬意を示した。小田原の北条家と京の公家との強い関係を示す貴重な資料である。 /広目子



詳細はレポートへ

小田原—京都に温かな絆

ういろうけ きおんまつり とうろうやま
—外郎家と祇園祭の螭螂山—

日本三大祭りといわれる京都・祇園祭は、実は小田原と深いご縁があります。そのご縁を結んでくださったのは、創業650年の小田原の老舗「ういろう」を営む外郎家の皆さんでした。なんと外郎家のご先祖様は、祇園祭で京都のまちなかを巡行する螭螂山の創始者。戦国時代に京都を離れ、北条早雲らに続いて小田原に入り、令和の現代に至ります。外郎家と京都の交流は平成後期に復活し、今では毎年、祇園祭の螭螂山巡行に参加。外郎家が懸け橋となってつながれた小田原と京都の人々の温かい絆を、2025年の文化レポートに書かせていただきました。 /予史重



詳細はレポートへ

かれこれ40年のお付き合い

自転車に乗ったヴィオラ弾き

皆さまは「ヴィオラ」と言う楽器をご存じでしょうか。私はかれこれ40年以上の付き合いです。花形のヴァイオリンと同じ形ながら裏方（伴奏、合いの手）に回ることが多いのですが、いろいろな楽器とアンサンブルしやすいのが強みです。また昨今は天皇陛下が演奏なさる楽器として注目度上昇中（推測）で、ソロやヴィオラアンサンブルを耳にする機会も増えてきました。そんな私の、最近の小田原での演奏録とこれからの予定をブログでお知らせしますので、市民の皆さまの音楽活動の一助となればと思います。 /じんちゃん



詳細はレポートへ

扁額あれこれ -三の丸ホールの寄席囲い-

- ▲ 三の丸ホールの名物ってえと、何ですか。
- まずは、立派な「緞帳」だな。で、もう一つが、「寄席囲い」。
- ▲ 何ですかそりや。
- こいつは自慢できる。大したもんさ。
- ▲ 何に使うんですか。
- 寄席の雰囲気上げるための装置だな。館長の肝入りで、柳家三三師匠と寄席文字の橋右楽先生が監修して作られたっていう話だ。
- ▲ あ、確かに寄席の舞台だ。え、真ん中の、この文字の書いてあるのは。
- 「扁額」だ。「萬国春風百花舞」
- ▲ え、どういう意味なんですか。寄席にはよくあるものなんですか。
- では、『扁額あれこれ』をお読みいただく。 /備堂能満



詳細はレポートへ



小田原の人は なぜこんなにも 地元愛が強いのか 考えてみた



小田原に移住して9年目、小田原の人たちの“地元愛の強さ”を日々感じています。なぜこれほどまでに地元愛が強いのか、私なりに探ってみました。まず1つは「環境のよさ」。小田原に別荘を構えた明治の文豪・斎藤緑雨が「海よし山よし天気よし」と言い表したそうです。言葉の通り、海と山の恵みがあり、冬は寒くなく台風の被害も少なく、暮らしやすいと感じます。2つめは「小田原城」。地元にお城があるということは、誇らしく思えるのではないのでしょうか。3つめにいく前に、文化レポートのメンバー、実は小田原出身者がほぼゼロと発覚！「地元出身者と移住者で地元愛は違うのか？」など、メンバー間の考察も交えて文化レポートで綴ります。 /RIE



詳細はレポートへ

小田原三の丸ホールから、こんにちは！

注目ポイント⑨：リターン式のロッカーと傘立て

観劇後にも感激！

傘立てだけでなく、ロッカーも使用後にお金が戻ってきます。取り忘れの無いようご注意ください。ロッカーは、国道1号側から入ってすぐのところに自動販売機と一緒にありますよ。



小田原三の丸ホール
小田原市本町1-7-50
開館時間：9時～21時
休館日：第1・3月曜日・年末年始（祝日の場合は翌日以降の最初の平日）

イベント情報は
こちらから

